

資料-2 第53回河川保全利用委員会審議事項の整理表

審議事項	第53回河川保全利用委員会(H30.12.4)審議内容 (主な委員意見、決定した事項及び継続して検討する事項)	第53回委員会での審議結果	第54回河川保全利用委員会 審議内容	第54回委員会 配布資料
1)第52回委員会活動の整理事項	●「資料-2 第52回河川保全利用委員会 審議事項の整理表」にて審議事項を確認し、承認した。	—	—	—
2)野洲川川田河川公園の更新申請に係る審議	●(1)審査表について 事務局から「資料-3 審査表」の説明を受けて審議を行った。	・特に意見はなく承認した。	—	—
	●(2)意見書(案)について 事務局から「資料-4 意見書(案)」、「資料-4-1 意見書(参考)」の説明を受けて審議を行った。	・提出された意見を反映させた意見書(案)を承認し、細かい文言については委員長、副委員長、事務局で調整して最終意見書として取りまとめを行う。	—	—
3)委員会の今後のスケジュールについて	●事務局から「資料-5 今後のスケジュールについて」にて説明を受けた。	—	—	—
3. その他	なし	—	—	—
4. 一般傍聴者からの意見聴取	なし	—	—	—

前回意見書（抜粋）（平成26年2月5日）

野洲川改修記念公園（守山市）

整備経緯・利用状況

占用許可申請施設は、旧野洲川南流における締切箇所の堤防を安定させ、また、非常用土砂等を備蓄する目的で、堤防の裏側に盛土により整備された野洲川南流側帯上に設置されたものである。

主な施設としては、昭和63年にゲートボール場、平成8年にサッカー場、平成9年にグラウンドゴルフ場が整備され、自然とのふれあいとスポーツの普及を図る運動施設として利用されているとともに、野洲川改修事業や野洲川の被害の歴史を紹介・学習する場としても利用されている。また、前回意見書（平成21年3月31日付け）の要望事項を受け、駐輪場・駐車場の敷地が確保された。

委員会の判断

当委員会は、河川敷利用の基本理念及び河川敷利用の基本方針に則り、スポーツ施設等の本来河川敷以外で設置可能な施設は原則として縮小していくべきだと考えているが、当該施設は当委員会が望ましい利用形態として掲げている「治水・利水のあり方を理解するための利用」に合致する利用がなされていること、河川の自然環境に与える影響が少なく、生物の生息・生育環境の連続性を分断する恐れが少ないこと、多くの利用者があり広域的な利用者交流も図られていることなどから、以下の要望事項を附した上で、占用許可の更新は妥当であると判断する。

■ 占用許可期限の更新に関する要望事項 ■

更新に関連する要望事項

① 前回意見書（平成21年3月31日付け）で要望した駐輪場・駐車場の整備に関しては、当委員会へ報告がなされた検討結果に沿って駐輪場・駐車場の確保が図られ改善が認められるが、利便性の向上を図るとともに基本理念に基づいた維持管理の検討を行うことを要望する。

② 地元小学生の地域学習等の場としても利用されているが、さらに環境・防災教育の活動等にも活用するよう要望する。

審査結果一覧表

審査区分	審査項目	審査細目	審査内容の説明	判断のポイント (抜粋)	野洲川改修記念公園(守山市)		
					前回審査(H26)の判断	河川管理者による 審査意見	委員会による審査の判断(案)
A 基本理念と 基本方針 等の検証	A1 基本理念	A11 基本理念	基本理念の内容を満足しているか。		おおむね満足している。	おおむね満足している。	
	A2 基本方針	A21 基本方針	基本方針の内容を満足しているか。		おおむね満足している。	おおむね満足している。	
	A3 意見書	A31 継続申請時の改善	意見書で指摘された事項について、改善を行ったか。	継続申請時に、意見書で指摘された事項の改善状況を確認する。	駐輪場、駐車場の確保が図られ、改善が認められるが、利便性の向上を図るとともに、基本理念に基づいた維持管理の検討が必要である。	駐車場の利便性の向上について、今回ゲートボール場を多目的広場へ変更し、駐車場としての機能を持たせること併せて検討される。また、駐車スペースは環境保全を考慮し舗装等は行われぬ。防災教育について、野洲川地域安全協議会の定めた取組方針等に基づき、今後進められる。環境教育については、防災教育と併せて検討される。	
B 占用施設の 計画と設置 理由の検証	B1 必要性	B11 必要理由	この場所を必要とする理由は基本理念と基本方針に照らし合わせ妥当か。	①『過去から使用しているから必要であり、継続して使用したい』という判断は、別の場の議論と考える。 ②環境を考慮した利用への変化を確認する。 ③やすらぎの場、レクリエーションの場として確認する。 ④設置の経緯、地元交流の場として確認する。 ⑤施設の活用状況を現地調査で確認する。	側帯であり、おおむね妥当である。	側帯であり、おおむね妥当である。	
		B12 適正面積	占用面積は必要最低限にしているか。その算定に妥当性を示したか。	①他の類似占用施設に比べて面積を比較する。 ②申請施設の中で、利用の少ない施設、不要と思われる施設(構造物)が含まれているかを判断する。	利用の少ない施設など、縮小を検討する余地はある。	今回利用の少ないゲートボール場を、利用実態や要望を踏まえて多目的広場へ変更されることから、占用面積は妥当である。	

B2 代替性	B21	代替可能性	堤内地で代替できない施設であるか。	①設置する施設が堤内地で代替可能であるかを判断する。一部の施設が代替不可能で、他の施設が代替可能との判断もあつる。	代替可能な施設である。	旧野洲川南流の締切箇所(側帯)での利用であり、過去の水害と放水路事業後の状況の体感・学習はこの場所ではかきえず、代替できない施設である。		
	B22	代替地調査	堤内地で代替可能な施設の場合、代替地を調査をしたか。	①調査範囲は、広域運営の市町村範囲を対象に考える。 ②都市公園法でいう誘致距離を参考に調査範囲を設定する。 ③休耕田や廃校などの情報を入手したか確認する。 ④市内の運動場、市民広場、スポーツグラウンドなどの施設地図で確認する。	代替地調査はされていない。	代替地調査はされていない。		
	B23	代替地選定	代替地調査の結果、適した代替地があつた場合、用地取得を試みたか。		代替地調査はされていないので、交渉はされていない。	代替地調査はされていないので、交渉はされていない。		
	B3 安全性	B31	人への安全	占用区域内及び周辺道路における利用者、散策者、流域住民の安全に配慮した対策を講じているか。	①現地調査で施設の状況を確認する。 ②利用者、関係住民から寄せられた意見を確認する。	おおむね配慮されている。	おおむね配慮されている。	
		B32	施設の安全	施設が自然災害等により被害(増水等による冠水、台風・地震等による倒壊、火災等)が生じた場合に備えて施設の安全対策を講じているか。	①現地調査で施設の状況を確認する。 ②利用者、関係住民から寄せられた意見を確認する。 ③災害時の施設の安全連絡体制が定めてあるか確認する。	安全対策がある程度は講じられている。	洪水時等の安全対策が講じられている。	
		B33	安全対策の周知	施設設置により影響を受ける近隣住民に安全対策と事故時の対応策を周知しているか。	①事故が発生した場合の施設利用者・住民への広報方法を確認する。 ②緊急時の対応として連絡先と連絡時期が定めてあるか確認する。	大きな問題はない。	大きな問題はない。	
B4 公共性	B41	公共性	設置する施設は広く一般の用に供することが可能で、申請者だけの利用に限られる排他・独占的なものではないか。	①利用者の制限はなく誰でも利用可能か確認する。 ②特定の団体の貸切利用等の優先利用の定めがあるか確認する。	誰もが利用できる施設として特に問題ない。	誰もが利用できる施設として特に問題ない。		
	B42	地元の理解	申請者は、設置する施設周辺の地元理解をどのような方法で得たのか(得るのか)。	①地元要望施設と一致している施設であるか確認する。 ②施設利用者の交通経路は、問題ないか確認する。 ③利用日数面で、使用しない時期、曜日があるか確認する。	地元に要望されている。	地元に要望されている。		
C 占用施設の 利用計画と 利用者等から の検証	C1 占用施設 利用計画	C11	設置期間	許可を受けた施設の使用期間はどのくらいになるか。	①占用開始からの年数を確認する。 ②施設の占用期間が長くなることで問題が発生していないか確認する。	25年間になる。(問題は発生していない。)	30年間になる。(問題は発生していない。)	
		C12	施設の変遷	継続申請の場合、前回占用許可期間内にどのように施設内容が変化したか。また、その変化理由はどのようなもので、適切なものであつたか。	①現地調査で古い施設と新しい施設の施設状況を確認する。 ②申請書の利用施設と現状の利用実態に相違がないか確認する。 ③利用されていない施設・構造物があるか確認する。	利用者が少なくなったゲートボール場を縮小し駐車場に転用した。	平成29年4月に工作物(ベンチ、ネット、便所)が設置されている。今回ゲートボール場の多目的広場への用途変更が計画されている。	

	C13	施設管理	利用に関する注意事項、緊急時の連絡先は看板等で利用者等に明示しているか。	①現地調査で注意事項・連絡先を記載した看板を確認する。 ②現地の利用者心得看板、占用標示板を確認する。 ③迷惑行為を禁止する看板等を確認する。	看板により明示されているが必ずしも明瞭ではない。	看板に明示されている。	
	C14	共同利用	既存類似施設が申請場所の近隣にある場合、その施設の共同利用について、所管者と協議を行ったか。	①自由使用の場合の使用者調整の方法を確認する。 ②利用者分析を実施して協調利用に反映しているか確認する。	近隣に類似施設がない。	近隣に類似施設がない。	
	C15	維持管理	施設の維持管理計画は適正であるか。また、施設の構造・規模は占用申請期間を適正に考慮したものか。	①現地調査で現状の維持管理状況を確認する。 ②自由使用の場合のカギとゲートの開閉管理を確認する。 ③自由使用場所の維持管理方法を確認する。	適正である。	適正である。	
	C16	施設の補修・新設	施設整備に係る使用資材は河川内の資材を極力使用することし、河川外からの持ち込みを必要最小限に留めているか。	①現地調査で現状の施設状況を確認する。 ②施設を補修した実績と持ち込んだ補修材の記録を確認する。 ③施設補修のルールを確認する。	資材は必要最小限とは言い難い。	必要最小限である。	
	C17	建造物の安全	施設を構成する遊具等の建造物の定期点検を実施しているか。また、安全対策は定めているか。	①遊具等の過去のトラブル・苦情を確認する。 ②構造物点検は、強度点検まで実施しているかを確認する。 ③構造物安全点検のルールを確認する。	定期点検は実施されている。	定期点検は実施されている。	
C2 利用者	C21	利用状況	占用区域内の各利用施設ごとに利用者数の変動(時刻、曜日、季節)を把握しているか。	①現地調査で現状の施設利用状況を確認する。 ②散歩者、水遊び利用者など利用者を確認する。 ③施設別の利用者数の増加・減少を確認する。 ④迷惑行為で利用されていないか確認する。	利用状況の把握については、十分に把握されていない。 なお、適正な利用のための調査が必要である。	概ね把握されている。	
	C22	便所	トイレ施設を確保し適正に維持管理しているか。	①現地調査で現状の施設状況を確認する。 ②トイレの施設数、カギの管理、清掃頻度を確認する。 ③施設案内図でトイレ設置表示が分かりやすいかを確認する。 ④障害者対応が取られているか確認する。	適正に確保されているが、老朽化対策と衛生管理が必要である。	適正に確保されている。	
	C23	ゴミ処理	ゴミ処理の方法を定めているか。	①現地調査で現状の施設状況を確認する。 ②ゴミの発生量を確認する。 ③ゴミ持ち帰りの呼びかけをしているか確認する。	定められている。	定められている。	
	C24	利用者対応	適正な利用を促すための管理方法(管理人等の配置)を定めているか。	①委託している管理内容を確認する。	管理人は置いていないが、利用者対策、管理方法は定められている。	管理人は置いていないが、利用者対策、管理方法は定められている。	

	C25	駐輪・駐車場	利用者の駐輪場・駐車場(身体障害者用等を含む)を確保しているか。	①現地調査で設置状況を確認する。 ②駐輪場・駐車場までの進入経路が容易かどうか確認する。 ③駐輪場・駐車場の設置面積は利用状況から縮小可能か確認する。 ④障害者対応の施設であるか確認する。 ⑤アスファルト舗装と砂利舗装と非舗装を確認する。	ゲートボール場を縮小し、駐輪場・駐車場の確保が図られているが、障害者等の利用に配慮した駐輪場・駐車場にされるべきである。	駐輪場・駐車場の確保が図られているが、障がい者等の利用に配慮したものにされるべきである。
C3 利用形態	C31	利用者の年齢等	利用者の年齢や身体又は健康状態に関わりなく利用可能な施設か。また、利用制限を設けている場合はそれに合理性があるか。	①子供からお年寄りまでが使える施設か確認する。 ②家族連れ利用の配慮があるか確認する。 ③釣り人などの施設目的外利用者の利用実態を確認する。	利用可能な施設である。	利用可能な施設である。
	C32	利用者交流	常時利用者と流域住民との交流はあるか。また、交流を促進させる計画があるか。	①『花火大会』など広範囲イベントの交流実績を確認する。 ②地元自治会の運動会などの利用実績を確認する。 ③定期的な開催利用と臨時的な開催利用の内容を確認する。	スポーツ大会が開催されている。さらに地元小学生の地域学習等の場としても利用されており、今後も河川敷利用の基本理念・基本方針の趣旨に沿った利用を促進すべきである。	スポーツ大会が開催され、地元小学生の地域学習等の場としても利用されており、地域住民の交流の場となっている。
	C33	川とのふれあい	利用者と川とのふれあいが可能な施設か。	①現地調査で、占用施設から川へ降りるアクセス経路を確認する。 ②水の流れている場所まで安全に通れるか確認する。 ③安全に水とふれあえる取り組みを確認する。 ④低水護岸に水面が接している状態であるか確認する。	可能ではない。(側帯に設置された施設である)	可能ではない。(側帯に設置された施設である)
	C34	河川愛護保護活動	河川環境・治水・利水等の理解を促すための活動計画(または実績)があるか。	①清掃活動、環境面を含めた「川を活かす」活動を確認する。 ②NPO団体、学校等と協調した環境保護活動を確認する。	活動計画はないが、環境・防災教育の活動等にも活用していただきたい。なお、清掃活動は実施されている。	利用団体や地元による除草、清掃活動が行われている。防災教育について、野洲川地域安全協議会の定めた取組方針等に基づき、今後進められる。環境教育については、防災教育と併せて検討される。
	C35	地域活性化	占用区域周辺地域の活性化を促す利用施設か。	①地域密着型の利用形態が可能な施設であるか確認する。 ②『河川敷でなければできない利用』の観点から、地域の交流の場として活用を確認する。 ③地域と連携して取り組む活動はあるか確認する。	地域に密着した利用形態であるため、利用の仕方によってはさらに活性化に寄与できる。	地域に密着した利用形態であるため、利用の仕方によってはさらに活性化に寄与できる。
C4 住民意見の反映	C41	意見聴取	利用計画策定に際して広く流域住民から意見聴取(対話討論会等)を行ったか。	①意見を聴取した範囲の考え方を確認する。 ②意見聴取方法を確認する。	広く流域住民からの意見聴取を行うべきである。	ホームページ及び各種公聴制度により市内外より広く意見を聴取できる仕組みがある。
	C42	利用者意見	流域住民や施設利用(予定)者からの意見を反映させて計画した施設か。	①施設利用団体など意見を聴いた範囲を確認する。 ②意見を聴いて施設に反映した内容を確認する。	利用者からの意見は把握しているが、広く流域住民からの意見聴取も行うべきである。	利用者の意見は把握している。また、ホームページ及び各種公聴制度により市内外より広く意見を聴取できる仕組みがある。

D 環境・治水・利水を考慮した占用施設の検証	D1 環境	D11-1	大気汚染	占用区域とその周辺の大気汚染等の現況を調査したか。また、施設は占用区域とその周辺の大気質に影響を与えないか。	① 占用施設が大気汚染の発生源にならないか確認する。	調査はされていないが、発生源となる施設ではなく、大気汚染の影響はない。	調査はされていないが、発生源となる施設ではなく、大気汚染の影響はない。
		D11-2	水質汚濁・底質汚染	占用区域とその周辺の河川水質・底質の現況を調査したか。施設は占用区域とその周辺の水質・底質に影響を与えないか。また、農薬(殺虫剤・殺菌剤・除草剤等)の使用を禁止しているか。	① 草刈の方法と実績を確認する。 ② 排水暗渠の設置の状況を確認する。	調査はされていないが、影響はないと思われる。農薬等も使用していない。	調査はされていないが、影響はないと思われる。農薬等も使用していない。
		D11-3	土壌汚染	占用区域とその周辺陸域の土壌質の現況を調査したか。施設設置により占用区域とその周辺の土壌汚染を招かないか。農薬の使用を禁止しているか。施設構造物等は有害化学物質を使用していないか。	① 草刈の方法と実績を確認する。 ② 芝の育成に堆肥を使用していないか確認する。 ③ 除草剤の使用をしていないか確認する。 ④ 害虫駆除の実績があるか確認する。	調査はされていないが、農薬等の使用は禁止されており影響はないと思われる。	調査はされていないが、農薬等の使用は禁止されており影響はないと思われる。
		D11-4	地下水	占用区域とその周辺の地下水・河川伏流水の現況と近隣住民等による利水状況を調査したか。また、施設は占用区域とその周辺の地下水系とその水質に影響を与えないか。		調査はされていないが、影響はないと思われる。	調査はされていないが、影響はないと思われる。
		D11-5	騒音・振動	占用区域とその周辺の騒音・振動の現況を調査したか。また、施設は占用区域とその周辺の新たな騒音・振動の発生源にならないか。	① 騒音が発生する施設であるか確認する。 ② 利用者・来場者の車・バイクからの発生があるか確認する。	調査はされていないが、発生源にはならない。	調査はされていないが、発生源にはならない。
		D11-6	悪臭	占用区域とその周辺の悪臭の現況を調査したか。また、施設は占用区域とその周辺への悪臭発生源にならないか。	① 臭気を発生する占用施設であるか確認する。	調査はされていないが、発生源にはならない。	調査はされていないが、発生源にはならない。
		D12	地形改変	占用区域とその周辺の地形の特性の現況を調査したか。また、施設の地形改変が占用区域の地形特性に与える影響は軽微か。	① 現状からの変更地形を確認する。 ② 利用者の通行路、車の通行路の改変を確認する。	調査はされていない。しかし、影響はないと思われる。	調査はされていない。しかし、影響はないと思われる。
		D13	整備の影響	施設整備に伴い小動物・植生への影響はないか。	① 占用箇所付近の環境調査結果を確認する。 ② 影響を少なくする整備方法を検討したか確認する。	生物の生育・生息環境に影響を与える可能性があるため、現状調査を行うことが望ましい。	生物の生育・生息環境に影響を与える可能性があるため、現状調査を行うことが望ましい。
		D14-1	陸生生物	占用区域とその周辺における陸生動物の分布等の現況を調査したか。また、施設は陸生生物、とくに貴重種や保全対象種の生存に影響を与えないか。	① 占用箇所付近の環境調査結果を確認する。 ② 刈り込み時期、頻度を確認する。	調査はされていない。多少の影響はあると思われるため、現状調査を行うことが望ましい。	調査はされていない。多少の影響はあると思われるため、現状調査を行うことが望ましい。
		D14-2	水生生物	占用区域とその周辺における水生動物の分布等の現況を調査したか。また、水生生物、とくに貴重種や保全対象種の生存に影響を与えないか。	① 占用箇所付近の環境調査結果を確認する。	調査はされていないが、側帯であり影響は少ないと思われる。	調査はされていないが、側帯であり影響は少ないと思われる。
		D15	生態系	占用区域とその周辺の生物・生態系の概況を調査したか。施設が占用区域とその周辺の生態系に及ぼす影響は軽微か。生物の生息・生育環境の河川縦横断方向の連続性が分断される可能性は低い。	① 河川敷全幅の占用使用がされているか確認する。 ② 河川(低水敷)側に生態確保スペースを設けられないか確認する。 ③ 同じ面積で、幅を狭くして長さを長くすることが可能か確認する。 ④ 施設維持での実施内容で影響を少なくする工夫を確認する。	調査はされていないが、影響は少ないと思われる。	調査はされていないが、影響は少ないと思われる。

	D16	環境復元	占用期間終了後、自然環境の早期復元を見込んだ整備計画としているか。	①撤去困難な構造物が設置されていないか確認する。 ②利用により転圧が増加することの環境回復を確認する。 ③施設撤去で廃棄物が多く出ない利用施設であるか確認する。	維持管理において早期の復元が見込めるよう留意するべきである。	撤去困難な構造物は設置されておらず早期の復元が見込める。	
	D17	作業車の通行影響	河川敷を占用施設の管理作業車が走行することにより自然環境への影響はないか。	①作業車の重量、走行頻度を確認する。 ②作業車の通行路と管理通路の関係を確認する。	作業車の利用はなく、影響はない。	作業車の利用はなく、影響はない。	
	D18	無線使用の影響	施設で使用する無線周波数は、周辺受信施設に影響を与えないか。		無線の利用はない。	無線の利用はない。	
D2 治水	D21	治水	治水上の影響について事前審査は完了しているか。(確認事項)	①利用施設が治水上影響がないか確認する。	河川管理者の審査項目として設定している。	河川管理者の審査項目として設定している。なお、堤防側帯であり、その機能を阻害しない利用であるため、治水上の影響はない。	
	D22-1	構造物	占用区域が存する河川における過去の流況を把握しているか。また、施設の構造物は洪水時に治水上の支障を生じさせないか。	①構造物の設置による支障の程度を確認する。	堤防側帯であるため、洪水の影響はない。	堤防側帯であるため、洪水の影響はない。	
	D22-2	構造物流失	洪水時に構造物が流出しない対策が講じられているか。また、流出した場合の処置を定めているか。	①冠水時の流出防止対策を確認する。 ②過去の他流出事例を反映した対策を反映しているか確認する。	堤防側帯であるため、洪水の影響はない。	堤防側帯であるため、洪水の影響はない。	
	D22-3	構造物撤去	冠水時に影響を受ける構造物を設置している場合、洪水時を想定した構造物の撤去訓練を定期的実施しているか。	①撤去訓練報告書を確認する。	堤防側帯であるため、洪水の影響はない。	堤防側帯であるため、洪水の影響はない。	
D3 利水	D31	利水計画	施設に利水計画がある場合、事前審査は完了しているか。(確認事項)		河川管理者の審査項目として設定している。	河川管理者の審査項目として設定している。なお、利水計画はない。	
	D32	利水への影響	施設に利水計画がある場合、あるいは施設が河川水・地下水に影響を及ぼす可能性がある場合、既存の水利使用に影響を与えないか。		利水計画はなく、既存の水利使用に影響を与えない。	利水計画はなく、既存の水利使用に影響を与えない。	
D4 景観・文化	D41	景観	占用区域とその周辺の景観特性(生態学的景観を含む)の現況を調査したか。また、施設の形態(形状・色彩等)が占用区域とその周辺の景観特性に及ぼす影響は軽微か。	①現地調査で近景・遠景の景観を確認する。 ②ベンチ、トイレなどの人工的な構造物の影響を確認する。	影響は軽微である。	影響は軽微である。	
	D42	景観変化の把握	占用に伴う景観変化の予測を行っているか。		行われていない。	行われていない。	
	D43	植栽	占用区域の植栽が周辺景観に及ぼす影響は軽微か。また在来の植生を活かした植栽か。	①河畔林などと調和した施設であるか確認する。 ②樹木管理の方法を定めているか確認する。 ③在来植栽を生かした利用であるか確認する。	在来植生を考慮していないが、影響は軽微である。	在来植生を考慮していないが、影響は軽微である。	

	D44	文化財	占用区域とその周辺の文化財の現況を調査したか。また、施設は占用区域とその周辺の文化財に影響を与えないか。	①野洲川洪水に関する記念碑の設置場所を確認する。	影響はない。	影響はない。	
	D45	歴史文化	占用区域とその周辺の歴史・文化に関する現況を調査したか。また、施設は占用区域とその周辺の歴史・文化(伝承文化等)と共存可能か。	①地域風土と共存可能な施設であるか確認する。 ②放水路新設による地区分断を考慮したかを確認する。	共存可能である。	共存可能である。	

※C16、D13「施設整備」には、新築・改築・維持修繕を含む。

今後のスケジュールについて(平成30年度)

委員会回数 月	平成30年度						
	第52回 9月	10月	11月	第53回 12月	第54回 1月	2月	第55回 3月
野洲川川田河川公園 (守山市)	諮問 審議			意見書(案)審議 意見書提出			
野洲川改修記念公園 (守山市)					諮問 審議		意見書(案)審議 意見書提出